第十二週

粘土　自在　一回

デン〳〵蟲　一回

デン〳〵蟲は幼稚園の庭なごで見つけておく。粘土を板の上で兩手でのばして細長くして、くる〳〵まるくまき、葉柄やヒゴなごで眼をつくつて木の葉の上にのせる、粘土をはじめる前に幼兒と一緒に園庭より木の葉、眼にする葉柄や小枝を見つけに歩く。

鋏仕事　自在　一回

模造紙の材料だけ與へて自由のものをきらせる。

ぬりゑ　ウチワ　一回

ウチワの色は幼兒の隨意にする。

年長組、第一保育期

—滿五歳、滿六歳—

生活訓練

第九週

年少組の時から、食事に就ては、いろ〳〵と又同じことも繰りかへして、幾度ぴか考へて來た。しかし、ごうもうまくゆかない。お辨當はうまいし、殊に年長組の六月といへば、幼兒として最も元氣な、從つておなかのよくすく、從つてお辨當の愈〻うまくもあり、樂しくもある時だ。そのうまくてたまらないところから、作法の方はつい〳〵うまくゆかないことにもよる。ところで、食事作法の中でも、食事中話をさせていゝかごうかといふことは作法論そのものとして常に問題になつたりしてゐる。樂しく話をしつゝたべるのがいゝといふ說と、だまつてたべるべきだといふ說とが相對立したりする。勿論、瞬間々々についていへば、

口に入れることゝ出すことゝ、兩方同時には出來ない。熱心にたべてゐる時はォヤと思つたりする程靜かに、しんとしたりするものである。しかし、それはそれでいゝとして、作法の規則として、默食主義が必ずしも絕對な話ではあるまい。若し、絕對的默食主義をとるとしたら、食事中の會話についての訓練などいふことも初めから起つて來ない。

樂しく互に話しながら、ゆつくりたべるがいゝし、それが自然であるとして、それだから、平生の會話と違つた注意が、食事中の會話に必要になる。口へ一ぱいつめ込んだまゝ、もぐ〳〵〳〵としやべりつゞけて、御飯つぶを散亂させるに至つては、本人もさぞ苦しいことであらうし、作法として甚だよろしくない。つまり、たべる作用と、話す作用とを同時的にしないで、繼時的に、上手に交替させて、食ひ且つ話すといふ具合にさせることは、先づ大切な注意である。

それにしても又、話に興がはずみ過ぎると、口の中のものを嚙まずに呑み込んで仕舞ふこともあり易い。そこで、此の場合、兎に角く、食べることが第一なのであるから、ゆつくり其方をすませて、おもむろに話すといふ風に癖をつけたい。そのお・も・む・ろがむづかしいのであるが。——それには、先生が遠方にばかりゐないで、子供一人〳〵の前へ座をとつて、そこをよくしつけなければならない。家庭の食卓で母親がするやうに。先生自身、口をもぐつかせて、皆さん、よくお嚙みなさいなんて、くしや〳〵と飯音を出したのでは駄目だ。

食事中の會話が、その內容の種類に就て注意を要することはいふまでもない。「さつきね、あすこにね、こんな汚いものがあつたよ」などいふことは大禁物である。政治の話、宗教の話は社交の禁物になつてゐるが、子どもにはその心配はあるまいから、先づ、きたない話をとめたらいゝであらう。そんなことはない筈だが、案外面白半分、思ひがけないことをいひ出すのが子どもである。

第十週

返事はいつも明瞭にといふ注意は、二つの場合を豫想される。返事のいつでも不明瞭な、性質のぐず〳〵した子。そういふのに對しては、此の訓練は性格訓練である。

ハイとイヽエ。西洋でいへば、ノーとイエス。この區別がはつきりしないのは、聲の出し方の弱さでなくて、心の弱さである。一番いけないことである。何事にも、一應、これをしつかり區別して、態度を明瞭にする習慣をつける必要が肝要である。大人になると、そう單純にのみゆきかねることもあらう。ごちらときめかねる複雜なことも多いし、又、自分でははつきりきめてゐても、相手や、傍の人に對し、そうはつきりさせない方がいゝ微妙な場合もあるであらう。子どもの時は、そんな心づかひはない。はつきりすればいゝ。それが出來ないのは性格上の一つの缺陷であらう。是非直してやりたい。幼兒訓練項目中の最も大切なる一項目である。

次にそうした性格上の理由でなく、遊びに氣をとられてゐて、先生に對する返事なんか、いゝ加減にしてしまふ場合である。これは、可愛いゝといへば可愛いゝことであるが、謂はゞ失禮なことである。呼びとめて、しつかり返事させるがいゝ。但し、面白い遊びを中斷させて返事をさせるのであるから、どうでもいゝ用や、後でもいゝことは、先生の方が氣をきかさなくてはいけない。——ところが、こういふ點に對して、先生ほど、無遠慮な人はないかも知れない。

第十一週

物を賴む時、その人の傍に來ていふ。これは確に作法でもあり、賴みも徹底する。たゞ之れ亦問題は、作業中忙しくて、つい、「一寸それを……」なんていふことになり易いのである。まあ、そこらは、先生の方でも察して、然るべくといふ處であらう。

第十二週

大分暑くなつて來た。日光の直射はよくないであらう。外へ出るには帽子を被ぶる習慣。これは簡單だが、先生は根氣よく注意する必要がある。